別添

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業成果報告書

学校名：岩手県立水沢商業高等学校

Ⅰ　事業の概要（地域の実情含む）

（1）避難訓練２回（火災、地震想定）
（2）普通救命講習
（3）東日本大震災津波被災地ボランティア活動
（4）震災学習

Ⅱ　取組の概要

（1）避難訓練（６月火災想定、９月地震想定）
消火器の使い方を水消火器で学習しました。

（2）普通救命講習
心肺蘇生法、ＡＥＤの使い方を学習しました。

（3）被災地ボランティア活動（作業風景）
津波をかぶった畑の再生作業を行いました。

（4）陸前高田伝承館での震災学習
語り部 武蔵裕子 様から講話をいただきました。

伝承館の敷地にある「希望の灯り」

生徒は、この塔を見て、東日本大震災を思い、切ないものを感じたようです。

Ⅲ　取組の成果と課題

（1）　成果
避難訓練により「安全に逃げる。自分の命は自分で守る。」を確認した。
内陸育ちの本校生徒にとって、今回の被災地でのボランティア活動、震災学習は、自分自身の目、体で被災地を体験することができ、大変有意義であった。自らの将来や地域の未来を主体的に考えることができるようになった。

（2）　課題
被災地での作業、学習は、効果大であり、次年度も継続して実施したいが、バス代の高騰もあり、予算的に厳しい状況である。

〇東日本大震災津波被災地ボランティア活動

生徒の感想文

男子生徒

九月に行った震災復興支援活動と十月の文化祭で行った募金活動について報告します。被災地支援活動では、津波をかぶった畑の草むしりを行いました。みんな黙々と真面目に草を取りました。畑の所有者の方から「どうも、ありがとう」と言われ、こんな僕たちでも役に立つことがあると知り、とてもうれしかったです。

草むしりのあと、陸前高田伝承館に行って語り部の方の講話を聞きました。当時の状況とこれからすべきことについて学ぶことができました。当時は食事もろくに取れず、とても不安の中、生活していた。何をどうしたらよいのか分からず、ただただ不安の中、生活していたそうです。今でも仮設住宅で暮らしている人がいることを知って、今私たちは普通に暮らしているのがあたり前だと感じていますが、被災地では、まだ普通の生活を送ることができない人もいる。私たちは恵まれているということを忘れずに生活していきたいと思っています。

十月の文化祭で私たちは、被災地支援の募金活動を行いました。目標額を30,000円とし、係を決め交代で活動しました。みごと目標額を達成することができました。人のために何かをすることは、とても温かい気分になれます。ボランティアというものは、された方もする方もとても良い気分になれます。私たちはこれからもボランティア活動に積極的に参加していき、多くの人の助けとなれるよう、頑張りたいです。一人ひとりがやることは小さな事かもしれませんが、多くの人が集まり参加することによって、たくさんの支援ができることを知りました。これからもボランティア活動に積極的に参加していきたいと思います。

女子生徒

私たちは九月に陸前高田に行き、ボランティア活動をしてきました。初めて被災地に行く人も多く、行きのバスの中は楽しい雰囲気でした。ですが、バスが海を通ったあたりからみんなのおしゃべりも減り、だんだん被災地に行くという自覚がみんなの中にはっきりと現れ始めました。

そして到着し、草むしりが始まりました。暑い中、胸の高さまである草をひたすら取る作業は大変でしたが、みんな一生懸命にと取り組んでいました。それは人によって思いの強さは違ってもきっと「力になりたい」という気持ちがあったからだと思います。

その後、伝承館へ行き、語り部の武藤さんから実際に津波を体験した話を聞かせていただきました。とても生々しい話でみんな真剣に話を聞いていました。これからもこの体験をずっと忘れてはいけないのだと感じました。私たちは津波を体験したわけではありませんが、津波の恐ろしさと、津波が来たら逃げる、というとても大切なことを教えていただきました。

最後の歌は、復興を願う気持ちが心にとても伝わってきて感動しました。

私たちがしたボランティア活動が少しでも人の力になればいいと思います。そして、また機会があれば被災した方々の力になりたいと思います。そして一日でも早く、復興が進むことを願います。